

齋藤 景子さん・加藤 由巳さん 株式会社ミツワ企業

女性が働きやすかつ活躍できる職場環境

「サンパイ女子」にはこれまで38都道府県の企業に従事する女性従業員にご登場いただいたが、今回は東北エリアで唯一機会がなかった山形県の企業から満を持して2名にご登場いただいた。県南東部に位置する上山市で、一般廃棄物、産業廃棄物（特別管理廃棄物含む）の収集運搬、産廃（同含む）の中間処理（焼却、脱水）を行っているミツワ企業の入社9年目の総務部主任、齋藤景子さんと入社2年目の営業担当、加藤由巳さんだ。社員の健康面に留意し、子育てしながらでも働きやすい職場環境を評価する齋藤さん。さらに従来男性の職域だった営業職にも女性を積極的に登用するなど、働き方改革、女性の活躍の場の推進に力を入れる企業だ。

◎齋藤景子さん

——前職と、入社動機を教えてください。

前職はサービス業で事務職をしていました。現在、子育ての時期ですので、日曜日と祝日の事務職を探していたところ、かつて父がドライバーとしてお世話になっていた当社を見つけました。父から「事務所の雰囲気がとてもよく、子育てしながらでも働きやすい職場環境だよ」という薦めもあ



「InstagramとFacebookは若い人の獲得にも活用できれば」という齋藤さん

り希望しました。

——現在の業務内容は。

売上伝票の入力や請求書の発行など、売上に関する業務を主に担当しています。事務職の経験があるといっても、産廃処理業界は初めてでしたので、例えば“m³”は一般的には立法メートルと読みますが、この業界では“立米（りゅうべ）”と読むことなど、すべて先輩方から一つひとつ教えていただきました。

——一つひとつとは丁寧な指導を受けたのですね。

父の言っていた通り先輩方は優しく職場の雰囲気はとてもよく、学校の行事などで休みが欲しい時はスムーズに取得できました。休みは私の部署は女性3人ですが連携して仕事が滞らないように進めています。

——精神衛生の面で働きやすい職場は何よりです。

9月から第2土曜日が休みになり、社長は今後、第4土曜日にも休みにする意向を示しています。子育てをしながら働く場合は休日が増えれば助かるのではないのでしょうか。また、当社は健康維持にも力を入れており、健康経営優良法人の認定を受けているほか、当社の所在地である上山市とも健康経営相互応援協定を締結し、同市が実施しているクアオルト（療養地）イベントに年1回参加しています。日々行っている健

康維持法はラジオ体操です。別所にある工場勤務の社員も本社に集まって毎朝全社員で行います。さらに健康診断で再検査の指示が出た場合は、診断書上で再検査を促すだけではなく、厚生も担う総務部が声かけをします。

——今、業務上力を入れていることはありますか。

当社と産廃処理業のことを多くのひとに知っていただきたいのでInstagramとFacebookを始めました。輪番制で投稿するのですが、日常の業務と並行しながらなので、余裕を持ってゆっくりとしたペースで投稿していければと思います。

◎加藤由巳さん

——前職と応募動機を教えてください。

ホテルで接客業の経験が長く、営業の経験もあることからコミュニケーション力を発揮できる営業職を希望していたところ当社の求人を目にしました。営業職は女性の募集はないに等しいのですが、そんな中、当社の“男女問わず”という条件に期待が高まりました。応募するに当たって産廃処理業界を調べたところ「社会インフラの一つ」として位置づけられていること、さらに、見聞きする環境問題と密接な関係があり、環境改善に貢献している業界ということで一気に興味が湧き、2年前に入社しました。

——実際入社されていかがでしたか。

入社後2週間はパッカー車や大型車に同乗し、現場を見ることから始めました。ごみとの関係はこれまで、家のごみを集積所に出すだけのことでしたが、現場に同行することで裏側を知ることができて知識を深めていきたいと思いました。

——最近、この業界は女性の営業担当が増えていきます。得意先での反応はいかがでしたか。

先輩方が行っていたルートセールスを引き継ぎました。はじめは女性の営業は珍し



同社初の女性営業担当者となった加藤さん

く驚かれましたが、先輩方が築いてこられた当社との信頼関係のお陰でスムーズに行えています。これは、かつて当社の顧客であった企業と再び取引する際も同様で過去の当社の仕事を評価していただいているようで、問題なく仕事が進められます。あえて男性営業にはない女性営業のアドバンテージですが、顧客に最初に訪問する際に女性が窓口のことが多く、安心していただいていることではないでしょうか。

——あえてお尋ねしますが廃棄物処理業の営業の難しさは。

廃棄物は一見同じようなものでも一つとして同じ性状のものはありませんから、受けた廃棄物を前例に倣って行なえば良いというものではありません。収集運搬、中間処理、埋立処分各工程でしっかりと計画を立てて適正処理を担保しつつコストも考えなければなりません。まだまだ解らないことはありますが、先輩方に伺いながら、顧客に寄り添い、その時に応じた解決策を提案し、次の仕事につながる営業をしたいと思っています。